

2 回のレポート課題（配点：各 50 点）により成績評価を行いました。（なお成績評価方法はつねに見直していますので、今後も同じとは限りません。）

<第 1 回レポート課題（5 月 31 日出題）>

- ①ハイエクは自由をどのようなものと考えているか。第 3～7 回の授業で配布した授業プリント（『自由の条件』第 1 章、第 9 章、第 10 章）を要約しながら、800 字以内で説明しなさい。そのさい、国家、法、知識という 3 つの言葉を必ず各 1 回以上用いること。
- ②①で説明したハイエクの自由概念を、1200 字以内で論評しなさい。たとえば、あなたの考える自由と比較したり、ハイエクの自由概念に問題や矛盾はないか考えたりするとよい。

<解説>

①は授業中に紹介したハイエクの自由論を要約してもらう問題です。国家、法、知識という言葉を用いることを条件にしました。これは、自由の定義を述べるだけでなく、自由を擁護するために国家や法が必要である理由、また自由を擁護する背後にある知識論、まで書いてほしかったためです。

②答案の書き方の一例として、ハイエクの自由とあなたの考える自由を比較する、という方法を挙げました。この場合、「自分がこれまで考えてきた自由は、ハイエクと全く同じだった」とか、「ハイエクの自由を学んで、全くその通りだと思った」というだけでは、あまり良い答案とは言えません。他方で、ハイエクは、他の自由の定義の可能性を否定していません。いくつかの種類の自由の混同を戒めただけです。ですから、「私にとっての自由は〇〇である。だからハイエクの自由は間違いである。」と決めつけるのも、あまり良い答案ではありません。ハイエクの自由概念を理解しつつ、批判的に乗り越えようとした答案を高く評価しました。

<第 2 回レポート課題（7 月 12 日出題）>

以下は、筒井清輝「歴史は再び自由民主主義へと弧を描く」（『中央公論』2023 年 5 月号）の抜粋である。

この論文も、ハイエクの授業プリントの民主主義論と同様に、民主主義の危機と、その復権について述べている。しかし、内容は異なっているように見える。そこで両者の民主主義論を比較し、その異同について論じなさい。

なお、課題の趣旨を誤解しないようにすること。以下の論文に対する個人的な感想を求めているのではない。また全体主義や権威主義について論じる必要はない。

(以下、抜粋。「法学部の試験」では省略。)

<解説>

授業中に紹介したハイエクの民主主義論と、レポート課題の資料にある筒井の民主主義論を比較し、異同を論じてもらう、という問題です。

課題文にあるように、両者とも「民主主義の危機と、その復権」について述べています。ですから、彼らの民主主義論は、「民主主義を△△と定義した」という単層的なものではなく、「現在の民主主義は□□と考えた。しかし危機を招いたので、民主主義に××という修正を施すことによって復権させるべきだと主張した」という複層的な（つまり現在の民主主義と修正された民主主義の二つがある）民主主義論であるはずです。そういった所が分かっているか、というのが採点の一つのポイントでした。

また、答案の書き方として、「ハイエクは……、筒井は……」とそれぞれの民主主義論の要約を並べるだけでは、比較し異同を論じなさいという課題に応えたとは言えません。二人はかなり位相が異なるので難しかったと思いますが、同じ点、異なる点を分析して掘り起こしたと思われる答案を高く評価しました。

<総評>

ハイエクのような有名な思想家には、すでに多くのわかりやすい解説が出回っています。しかしそれが最終的な正解というわけではありません。研究者はつねに、それまでの通説的な理解に疑問を呈して、より深く、より新たな理解を見つけ出す努力をしています。

この授業では、私のそういった努力を紹介しつつ、皆さん自身にも研究者の努力を体験してもらうことを目指しました。レポート課題でも、既存のよくある解説をなぞっただけの答案ではなく、授業をふまえて自分で考えた答案を、高く評価しました。